

■学校経営のポイント

普段の学校生活、学習活動を取り戻す

小島 宏

新型コロナの緊急事態宣言は解除されたが、世の中も学校も、まだまだ落ち着いた状況にはほど遠い毎日である。冷静に対応し、子どもたちに普段の落ち着いた学校生活と学習活動を取り戻したい。

新型コロナに関する指導

引き続き、「自分がうつらない、他人にうつさない」ため、次のことを教職員が率先垂範するとともに、子どもにも分かりやすく指導し実行させる。

- ★毎朝、体温測定と健康チェックをする。
- ★手洗いや、手指の消毒をこまめに行う。
- ★3密(密閉、密集、密接)を回避する。
- ★身体的な距離(最低1m)をとる。
- ★せきエチケットを徹底する。
- ★こまめに部屋の換気をする。

生活リズムと人間関係

臨時休校や不要不急の外出自粛で、子どもの多くは身体的・精神的にストレスを抱えている。

そこで、基本的な生活習慣の状況を確認し、生活リズムを取り戻すようにするとともに、遊びや運動不足の解消の工夫をし、楽しい学校、楽しい学級になるように配慮する。

特に、協力、協働、助け合い、思いやりなどを奨励するとともに、イライラなどのはげ口としていじめや暴力、差別や偏見などが起きないように学級経営や道徳の指導、生活指導を充実する。

昨年度末の休校中の補習

臨時休校による未習部分を明確にし、新学年の学習に支障が起きないようにする必要がある。

そこで、指導内容を基礎・基本に精選し、重点化して指導する。練習や復習は、子どもの負担に配慮して、朝学習や家庭学習も併用して無理なく進める工夫が必要である。

新学年の学習の遅れ

当然、4月以降の学習の遅れもある。しかし、これを一気に取り戻そうと慌てることなく、冷静に指導計画を見直し、調整することが大切である。

そこで、指導内容の精選や重点化をしたり、教科等横断的(合科的)な展開を工夫したりして取り戻すようにしたい。

授業時数の確保

3学期末及び新学年の欠落した授業時数の補填も気になることである。しかし、単なる数合わせに陥ることなく、子どもの生活リズムや学習の取り組み方を考慮することが重要である。

授業時数の確保について、下記のような試行や提案がある。教育委員会の方針、子どもの負担、保護者の事情や理解、教職員の働き方などの視点から検討し、実態に応じた無理のない対策を講じたい。

- ★1時限前や5時限前、放課後の15分、20分の短時間授業を実施し、1単位時間に算定する。
- ★15分など短時間を組み合わせ、指導内容や学習活動に応じたモジュール制時間割を作成する。
- ★1単位時間を40分(中学校45分)授業にする。
- ★午前中を5時間授業にする。
- ★長期休業を短縮する。

管理職のリーダーシップ

今回のような緊急事態に伴う対応については、校長の明確な基本方針の提示とリーダーシップ、これを確実に実施していくための教頭のマネージャーシップが肝要である。

教職員への感謝の念をにじませつつ、自校流に進められたい。また、保護者への連絡を密にし、理解と協力が得られるようにする。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●感染症、SNSトラブルから、防災・防犯まで！《好評発売中！》

A4・1枚 学校危機管理研修シート 123

【編著】矢崎良明 B5判／定価(本体 2,400 円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

